

<認知症対応型共同生活介護用>

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<b>11</b>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<b>2</b>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<b>6</b>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<b>11</b>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>30</b>

事業所番号	4670105180
法人名	有限会社 ソフィア・インターナショナル
事業所名	グループホーム 山田の里
訪問調査日	平成 22 年 3 月 24 日
評価確定日	平成 22 年 5 月 2 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

**○項目番号について**  
 外部評価は30項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

**○記入方法**  
 [取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
 [取り組みを期待したい項目]  
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。  
 [取り組みを期待したい内容]  
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**○用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成22年 3月31日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4670105180
法人名	有限会社ソフィア・インターナショナル
事業所名	グループホーム山田の里
所在地	鹿児島県鹿児島市山田町44-3 (電話) 099-264-0850

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会
所在地	鹿児島県鹿児島市城山1丁目16番7号
訪問調査日	平成22年3月24日   評価確定日   平成 22年5月2日

## 【情報提供票より】(22年3月5日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 年 3 月 15 日
ユニット数	2 ユニット   利用定員数計 18 人
職員数	16 人   常勤 14 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 15 人

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2階建ての, 1階 ~ 2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30000 円	その他の経費(月額)	10,000 円
敷金	有( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000円)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり1000円			

### (4) 利用者の概要( 月 日現在)

利用者人数	18 名	男性 7 名	女性 11 名
要介護1	6 名	要介護2	5 名
要介護3	7 名	要介護4	名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 85 歳	最低 69 歳	最高 99 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	中山クリニック ・徳洲会病院 ・高田歯科
---------	----------------------


## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

山田の里は新興住宅地の中にあり、近くにスーパーや小学校がある。登下校の子供たちも時折り立ち寄り交流が行われている。職員は理念に沿った支援を目指し、その人らしいゆとりある生活が送れるよう、一人ひとりの思いや意向を大切にしている。又、月に1回の戸外レクリエーションには家族の参加もあり、笑顔を大切にしている。全職員は現状に満足することなく、さらなる質の向上を目指し研修参加や勉強会等、日々努力している。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価での改善課題はない。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>各ユニット毎に自己評価項目の話し合いの時間を持ち1ヵ月程かけて全職員で取り組んでいる。さらに向上したいという項目も見えてくる等、自己評価が振り返りの機会となっている。</p>
	<p>重点項目②</p> <p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>地域住民、家族を交えた会議を年に6回開催している。内2回は消防訓練も兼ねているため、避難誘導やAEDの使い方等の勉強の機会になっている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>運営推進会議を兼ねて年1回は家族会を行っている。面会時やケアプランの見直し時に家族の意見や要望を聞いている。法人からの利用者へのアンケート(職員の対応や食事等)の結果を基に改善点を検討しているが、細かい意見を引き出せる工夫を検討中である。</p>
重点項目④	<p>町内会に加入し、地域の行事(文化祭・校区運動会・十五夜)に出かけたり、散歩時は地域の方々との挨拶を心がけ地域との交流に努めている。保育園児の訪問や中学生の体験学習・ボランティアの受け入れも行っている。</p>

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時に全職員で話し合っつくった理念である。笑顔をモットーとして地域密着を目指したものであるが、4年経過しているため、具体的なものをつくりたいと検討中である。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日朝礼で理念を唱和し共有できるようにしている。ホーム内の掲示もあり、ホーム便りや各会議の案内状へも理念を掲載している。日々の支援で笑顔を大切にしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し地域行事(文化祭・校区運動会・十五夜)の見学参加を行っている。散歩時は近所の方々への挨拶を心がけており、野菜や果物を頂くような付き合いがある。保育園・高校生ボランティア・中学校の体験学習の受け入れなど交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	各ユニットごとに職員で自己評価の各項目ごとに話し合いの時間をもち1ヶ月程かけて全職員で取り組んでいる。自己評価をすることで、さらに向上したいという項目もみえ、振り返りの機会となっている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域住民・家族を交えた会議を年6回行っている。内2回は消防訓練も兼ねているため、避難誘導やAEDの使い方等の勉強の機会になっている。		

鹿児島県 グループホーム山田の里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者やホームの状況等の報告や相談をしている。市の相談員の受け入れをしたが、特に問題となる相談はない。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月1回ホーム便りに担当者が利用者の日々の様子を書き入れ写真や行事予定表も同封し送付している。体調が変化した時は随時、電話で連絡・報告を行い家族の安心に繋げている。金銭出納帳の確認は家族の面会時に行われ、遠方の家族には毎月出納帳・領収書が送られている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を兼ねて家族会を年1回行っている。面会時やケアプラン見直しの時等も家族の要望・意見を聞いている。法人からのアンケート(職員の対応・食事等)の結果を基に改善点を検討しているが、さらに細かい意見を引き出せるための工夫を考慮中である。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各ユニットの職員は固定しているが、合同での行事を行うことで馴染みの関係づくりに考慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時、事業所内研修を3ヶ月間と継続研修を年1回実施している。谷山地区グループホーム協議会の勉強会や協力医療機関の中山クリニックでの勉強会に月1回参加し職員会議で伝達講習も行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県・市のグループホーム協議会に加入し、会議や勉強会参加をとおり、情報交換の機会としている。同法人内のグループホーム間での見学交流も行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	申し込み時に職員が自宅や病院等へ出向き馴染みの関係づくりを行っている。 入居の前に見学や空きベットを利用した2～3日の体験もしてもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の背景を知った上で喜びや悲しみを共感できるように心がけている。 人生の先輩として季節の行事や体験工夫等を教えてもらっている。又、職員は利用者と一緒に笑って過ごせることを嬉しく感じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や動作から利用者の意向を把握するようにしている。特に食事や入浴の時間には思いを聞くようにしている。 家族や関係者から情報をもらい本人本位のケアを心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者会議では本人・家族・主治医・職員を交えて検討している。日常ケアでの気づきは個別記録に記入し申し送りも行い、共有できるようにしている。 職員は個々の介護計画書に目を通すことを心がけている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月3名ずつケース検討会議を行い6ヶ月ごとに介護計画の見直しをしている。 日常のケアで困った時は意見を出し合っている。訪問診療時には医師・看護師の意見をもらい介護計画に反映させている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	月2回往診をしてもらっているが、本人・家族の要望がある時は受診支援をしている。又、希望時には自宅訪問や墓参り支援も行っている。事業所関連の医療機関や訪問看護センターとの連携も取り、要望に応じた体制がある。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望とするかかりつけ医となっている。月2回の往診時には日常の状態を書面にて報告している。必要時には通院介助も行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時には終末期の対応等の説明をしている。重度化した場合は家族・主治医・関係医療機関を交えた話し合いを行い方針を共有している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録物は保管場所を取り決めており、個人情報の取り扱いには十分気を付けている。 職員採用時は守秘義務について誓約書を取っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、入居者それぞれのペースで過ごしてもらっている。 本人の希望にそって体調に配慮した支援を心がけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物・野菜の下ごしらえを利用者と一緒に行い、作る楽しみを持てるように配慮している。季節の野菜や旬の材料を中心としたメニューに心がけ、職員が同じテーブルで食べる等、楽しい雰囲気づくりに心がけている。月1回の外食は入居者の希望を汲んだものになっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	男女の順番を決め一人ずつ入浴介助をしている。入浴剤や季節に合わせて柚子湯・菖蒲湯等も欠かさず行っている。入浴拒否された場合は時間やタイミングを見計らって入浴できるよう支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	モップ掛け・洗濯物たたみ・お盆拭き・台拭き・花の手入れ・畑作りを一緒に行い収穫を楽しむ等、役割りや楽しみ事を見つけ出した支援をしている。カラオケや体操・外出等の気晴らしの支援もしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や体調をみて20分から30分の散歩をしている。車椅子の方も買い物やドライブに出かけている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外出傾向にある方は見守りを徹底し無理強いせずさりげなく行動するようにしている。又、近所や交番にも協力依頼をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の指導の下、避難訓練を行っている。スプリンクラーや自動通報装置も設置され利用者の緊急時要介護シートも作成している。	○	災害対策は地域との連携も重要であるため、避難訓練に自治会や地域の参加が得られるような協力体制を運営推進会後等を通じて検討されることが求められる。又、度重ねる自主訓練をとoshi、職員が自信を持ち避難誘導できることを望みます。

鹿児島県 グループホーム山田の里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同法人の栄養士に献立をみてもらいアドバイスをもらっている。食事量・水分摂取量を記録し毎月体重測定を行うなど体調変化に気をつけている。入居者の嗜好を把握し献立に取り入れている。		
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールにテーブル・ソファ・テレビが置かれ入居者は好きな場所で語らいゆっくり過ごす様子が伺える。ホールの柱にはシルバーカーや車椅子がぶつかった時の衝撃を少なくするためエアークッションを巻くなど工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	備え付けのベット・タンスがあるが、布団は持ち込みのものである。昼寝はベットを利用するが、夜就寝する時は床に布団を敷いて休む方もいて本人の希望に沿った対応をしている。 本人が使い慣れた鏡台・椅子・ラジオ・ポールハンガーがあり、お位牌や写真を持ってきている方もある。		